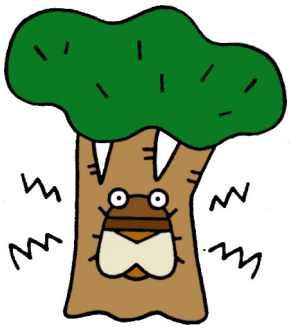
みちくさ

2016.8.31　No.28

少年の日

夏休みが終わって 1 週間になります。子どもたちの生活リズムもそろそろ戻ってきたように思います。休み中に作成した図画や作文を見ていると，様々なことを見つけたり，たっぷりと楽しい体験をしたりできたようですね。

7 月の 20，21 日と 8 月の 3 日の 3 回，東北大学のキャンパス内でセミの幼虫を探すサイエンス教室を行いました。これは東北大学大学院生命科学研究科の渡辺正夫教授の全面的なご指導によるものでした。渡辺教授には，今年から本校の学校評議員をお引き受けいただいております。もともと大学のキャンパスに縁がない子どもたちに，自由に入ってもらいキャンパス内を知ってもらうというねらいもありました。



セミの幼虫を探すのは，簡単なようで意外と手強いです。すぐに見つけられたのは初日だけでした。時間が少し早いと，幼虫は動き出しませんし，3 回目は午後に少し雨が降ったため，ほとんど幼虫は出てきませんでした。天気とか時間とか，昆虫には分かるのでしょうか。あまり早く地面から出てくると鳥に見つかってしまうし，天気が雨だと羽化が難しくなるしと，この環境を感じ取れるセンサーには驚くばかりです。

遠い昔，セミの羽化を心待ちにしていた体験を思い出しました。夏休みに母親の実家に遊びに行ったとき，夕方に出てきたばかりの幼虫をたまたま見つけ，そのまま家の中で羽化させたことがあったのです。夜の 10 時頃までにはすっかり羽も伸びてセミの姿になったのですが，飽きもせずにずっと眺めていた記憶があります。残念ながら，気を利かして写真を撮ることもしていませんでした。今思うときちんと写真に収めておけば，それだけで夏休みの自由研究が終わっただろうにと思います。

このサイエンス教室に参加して，久しぶりにわくわく感をもちました。セミの穴に指を突っ込んで幼虫を確保するということまでは知りませんでした。そういう意味で，少年の時代に戻っていたのは，私より渡辺教授の方ではなかったかと思います。自然の面白さや不思議さを感じとれることは，何と素晴らしいのでしょう。自然の中で様々な体験をし，たくさんのことを学ぶことの大切さを改めて強く思いました。

片平地区は市内中心部に位置しておりますが，山有り川有りで自然に恵まれた地域です。自然観察だけでは無く，写生をしたり，写真を撮ったりするスポットもたくさんあると思います。地域の自然に感謝しつつ，これからもたくさんの体験を積ませていきたいなと思います。

オリンピックに夢中

甲子園の高校野球がかすんでしまうくらい，今年のオリンピックではたくさん元気をもらいました。なんといっても陸上 400 メートルリレーの決勝では熱くなりました。4 人の走者の中で，誰一人として 9 秒台を出したことのない日本チームが，銀メダルをとった秘密は何だったのかと，休み明けの朝会で子どもたちに問いかけました。その秘密はバトンの受け渡しにあったことを，2 年生の子がちゃんと答えてくれました。実は子どもたちが答えられない時のことを想定して，その時は体育主任の今野先生に解説をお願いしていたのです。子どもたちも関心をもってオリンピック番組を見ていたのでしょうね。いろんな種目にたくさんのドラマが有り，本当に一喜一憂しました。

朝会では，この他に２つの出来事を取り上げました。一つは陸上女子 5 千メートルの予選で起こった出来事です。アメリカとニュージーランドの選手が交錯して転倒してしまいました。一人の選手が起き上がれない状況に陥ってしまった時，もう一人の選手が転んだ選手を励まし，二人とも無事にゴールできました。勝ち負けだけでは語れない，スポーツの持っている素晴らしい場面を見せられました。もう一つは，柔道の男子 100 キロ級の予選で起こりました。イスラエルの選手に負けたエジプトの選手が，握手を拒否したのです。イスラエルの選手が握手を求めて前に進むと，エジプトの選手はそのまま後ろに下がってしまいました。宗教の違いや国同士の関係を乗り越えたところに，スポーツマンシップの尊さがあると思うのですが，一方でこういう場面がテレビで流れてしまい，とても残念に思いました。子どもたちには，この二つの出来事に対する私の考えをそのまま話しました。

さて，4 年後にはいよいよ東京オリンピックです。今の 6 年生も，4 年後は十分にオリンピック選手の対象になります。リオのオリンピックを見て，次の東京に思いを馳せる子どもたちもたくさんいるのでしょうね。志を高く持って頑張って欲しいと思います。

前回の東京の時には私は小学 2 年生でした。なぜこんな細かいことまで覚えているのかというと，オリンピック観戦をする時に，テレビのある広い部屋へ移動したのですが，その際，誤って転び，持っていた鉛筆を左の手のひらに刺してしまったからなのです。実はその時の芯のかすが，まだ左手の中に残っています。私のオリンピックの苦い思い出です。